

万博 陰の功労者

北大阪清掃 幹

今たけなわの万博。大阪人なら、もう大抵の方が一度は足を運んでいることだろう。

しかし行かれた方は推察がつくだろうが、会場内のゴミは甚大なもので、一日80ト。80トといえば、人口十万人の一日分で、ふつうのゴミに比べて三倍の力サを持つとあり、かつ毎日午前〇時～七時迄の時間内に処理しなければならないとあって、想像以上に大変であるが、大阪市許可の日本万博委託総括事業所「北大阪清掃」幹は、この業務を引きつけて活躍中だ。

・仕事とは、相手に喜んでもらってこそ本当のものであり、企業として成り立つ。仕事が汚いからこそ喜びとちる意義がある」と奉



仕の精神で日夜ゴミ処理全般、ビル社内外清

掃工場排出処理物に挺身する八十名の社員を率いるのは岩元亮

了社長（写真・33才）である。

大阪市の約1%のゴミ処理を手がけるといふ信用を得ている

が、現在は前述のように、万博のゴミ処理を一手に引きつけ、日本の代表・とライドも高く邁進しているところ。

氏は軍人の家庭に育ち、人の為に尽くす仕事を求めてこの道にとびこみ十余年、最近では清掃業に対する認識も新たになっているが、社員には「国の仕事に参加している気持をもって」と週一回アイスカッションを行ない、一企業としての自覚をうながしているのはさすがである。

（都島区内代町二の七の三八・電952―二八五八）



日本万国博——開催二カ月前、動く歩道の事故、食中毒事件、太陽の塔乗っ取り勇……いろいろ

件、太陽の塔乗っ取り勇……いろいろ

かな「世界の祭典」に一片の紙屑さえも見落してはなりません。欧米諸国にくらべて、日本の公園や街角にはゴミが散乱している……という日本人のモラルの低さを批判した話を思い出した。赤面するのは私だけではないでしょう。

産業廃棄物の処理法
一生一代の仕事として万博のゴミ処

万博のゴミを一手に

北大阪清掃株式会社

岩元亮了氏

大阪市都島区内代町二の十三八



なとがありまし
た。ともあれ、好
評・悪評の渦巻く中に、我人は
毎夜（ほとんど徹夜で）ゴミ処
理の作業を続けて来ました。

目を見はるほど色鮮やかな各
国のパビリオンや催し物のある
中で、われわれの仕事は余りにも
地味で、目立たない存在に過ぎ
ません。しかし、この晴れや

された場所をお願いします。もしゴミ箱がいっぱいなら、風で飛ばないようにとモでくってそばに置いて下さい。公衆道徳は一人一人の心くばりが大きな意味を持つのですから……。

各国のパビリオンを回ってゴミを集めていると、面白いことに気がつきます。ゴミを出すの

まで過してきましたが、すでに、産業廃棄物の処理問題が目前に迫っています。種々雑多のモノがあるだけに、処理方法も困難を極めています。われわれ業者も企業として伸びていくには、さらにこの問題に真剣にとり組まなければならぬ時期だといえるでしょう。

のゴミ処
理に三年
間、計画
を練った
成果があ
り、大福
なく今日

会場内の 衛生環境

万国博のゴミ収集へ

活躍する 北大阪清掃株式会社

万国博は開幕以来、予想以上の入場者を集め、連日三十万から三十七、八万人の人が押かけて非常な賑わいを呈しているが、この

入場者が毎日会場に出すゴミも大変なものである。このゴミの量は一日平均八〇トンから九〇トン、多いときは二二〇トンからあるといわれているが、この難題の解決を一手に引受けて、会場の衛生環境に大きな役割を果たして活躍しているのが北大阪清掃株式会社である。本社大阪市都島区内代町二丁目七十三八・社長岩元虎子氏である。

管理センターの事務所を訪ね、同社の作業活動の状況について聞いてみた。

万国博の清掃作業を担当するビルメン業界では、ビルメンテナンス協会の会員の全部が集って受注し作業を分担して行っているが、万国博のゴミ収集の場合は、業界の一方の有力業者である北大阪清掃株式会社が単独一社で受注して作業に当たっている。

こんどの万国博作業については同業界でも最初、自衛、他衛いろいろ競争があったり、入札などの方法も考えられたものと思ったが、どうして同社の受注になったのか

聞いてみると、万国博協会では、まず第一に会社の業界における信用を重し、従業員の勤務態度、定

時状況などに注意した。従業員は専ら勤に専心しているだけに驚の荒っぽいものが多いが、国内、外国からも多数の入場をむかえる万国博としては真面目な従業員でなければ困る、そういうたことの総合的な調査の結果で、結局同社の受注となったようだ。

万全の作業体制

同社が担当する作業は、万国博会場の道路、広場、パビリオン、食堂、売店から出るゴミ、一日大

体平均八〇トンから九〇トン出る

ゴミはビルメンの作業員が場内各所に配置したくす入れ、吸から入れから集めた、清掃作業で集めたもの、これをダストカート(手押しゴミ運搬車)吸から収集車、ゴミコンテナで一定の場所へ集めたもの(ゴミ収集中継所は内務省の三、四カ所の広場にある)ものを、同社の従業員がクレーン車に積み込み、これをトラック、東口駐留場のそばにある吹田市の川井通運場に運搬し焼却する、この

作業を昼夜、何回かくりかえしているが、主として夜の作業が多い。同社は、この作業体制として、従業員と語っている。

最大三名から九〇名が昼夜常時作業に当り、全従業員としては二〇三名を配置している。

また、収集車はクレーン車二五台、四トン車二台、シヨベル車一台、エルフ二トン車一台、パトリール車二台を配備、このパトリール車で、ゴミの量の多い所、少いところを常にパトリールするなど活動している。

作業状況について作業主任の金井管理部長に聞くところ――

作業はかなりやり難い点がある。例えば、配置されたコンテナに食器、売店などから出すゴミが袋に入れないでバラで散り込んでいたため作業効率に影響する。協会を通じて指導を依頼しているため、最近やや改善されてきたが、まだ十分でない。開博当時は作業にマズいようなこともあったが、約二カ月を経過して現在は安定した作業が順調に軌道に乗っている。